
父さんの会社が 脳好き人間

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

父さんの会社が

【NZコード】

N9124Y

【作者名】

脳好き人間

【あらすじ】

題名の通り、もはや言つことなどない。

最近、父さんの様子がおかしい。

元気がなくなつたし、早く家に帰つてぐみよつになつた。しかも酔つ払つて。

前までの父さんは毎日遅くまで働いていて、夜遅くに疲れ果てた姿で帰つて来ていた。それでも、日に日に生きる氣力みたいなものをしつかりと宿していた。

しかし、今の父さんの田には氣力を感じられない。

心配だ。明日、ちよつと様子を見てみよう。

「いってきまーす」

学校に行いつとこるよつて見せかけ、近所の公園へ行く。

Jの公園からは、我が家の玄関が見えるし、様子を見るのによい。うどっこい。

おつと、早速父さんが出でてきた。

「わ、いひに来る。じひじ？父さんの会社はあつちなの。」
急いで土管の中に隠れる。この公園は、今時珍しい土管付きの公園なのだ。

昔はどこの公園にも土管が置いてあったのに、最近は見なくなつたなあ。

キー、ロー、キー、ロー。

「ラン」の音が聞こえてくる。見れば、いい歳したオッサンが、ビール片手に「ラン」をいいていた。

「、父さん。なんで？仕事に行かなくてもいいの？」

「・・・」

何やらうるさい言ひ方をしていた。ついん、聞き取りにくくな。

「実は、・・・云々・・だ。父さん・・が倒産・・」

田を、いや耳を逸らしたくなるような言葉が、ピンポイントで聞こえてきた。

落ち込む俺を知つてか知らずか、いや知らずに、しばらへそんなことを言つて続ける倒れ、父さん。

「いや、俺達にそれを伝える練習をしてくるみたいだ。

」の様子だと、今晩ぐらこは伝えるつもりだったのかな。

母さん、それに弟達、驚くだろうな。はあ、明日かい、どうせ父さんに接せばいいんだ。気まずいよ。

この不景氣だ。再就職先を見つけるのは大変だろう。我が家のみんな、これから先、生活していくのかな。不安だ。

その日の夜、父さんは家族のみんなを呼ぶと、おもむろに口を開いた。

「お前達、実は伝えないといけないことがあるんだ」

その言葉に、家族の皆が「クリ」と呑み、と睡を飲む。

「実は……」

頑張れ、父さん。俺は応援しているぞ。

「父さんの会社、倒産したんだ！」

「　　」

皆が黙り込む。父さん、アンタつて人は……。

「あ、あはははは。流石は私が見込んだ男。最高だよー。」

笑い転げる母。

「あはははは、お父さん、ははは、おもしろーー」

腹を抱える弟達。

「ふつ、ふははははは」

吹き出す俺。

せつまでは不安に思っていたが、この家は、皆は、全然大丈夫だ。そんな気がする。

父さんの会社が倒産。そのくらいじゃ、我が家のは崩れない。

皆の様子を見て、照れ笑いを浮かべる父さんを見ながら、家族つていいいな、と、改めて感じた。

あ。

いや、全く関係ないけど、昔、土管があったのは公園ではなく空き地だった。

ど、どうしてあの公園には土管が置いてあるんだ？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9124y/>

父さんの会社が

2011年11月27日11時56分発行